

Learning Assistant

LA活動報告

台湾での国際学会でLAが活躍しました

2017年3月に台湾で行われた、最先端のITの様々な分野について研究を共有し、未来のITについて考える主旨の国際学会(International Symposium on Grids and Clouds 2017)に、LA 7名が学会スタッフとして参加しました。この学会には、世界30カ国から280名ほどの参加がありました。

これまで、現地の学会スタッフと協働で準備から運営までを担当していましたが、今年は本学からの学生スタッフが中心となって学会の準備から運営を担当しました。学会開始前から現地入りし、参加者に渡す学会資料の準備、会場内の案内ポスターや会場入口のセッション案内の準備、学会本部の設置、受付、会場の設営をおこないま

した。学会開催中は、受付、各セッションでのAV機器の調整、タイムキーパー、発表者ごとに発表資料のアーカイブ、コーヒープレイクの準備等の業務をチームで担当していきました。閉会式では、学会主催者から感謝状をいただきました。

(教育推進部 山本敏幸)

インターンシップ後のふりかえり

今回は昨年に引き続きの参加ということで、昨年に比べ、仕事の責任や量が増え、それに対するプレッシャーを感じましたがやり遂げることができました。それを特に強く感じた出来事は、今まで山本先生が行っていた連絡等のやり取りを学会の担当者と直接行ったことです。様々な事柄を英語を用いて話し合い、合意形成をしました。また、学会の期間中、想定外のトラブルがありましたが、それらに関しても問題解決を用いて対処することが出来ました。今まで学んだ交渉学における合意形成を実際の社会の場で使い、英語でコミュニケーションを取ったということは、貴重な経験になりました。このインターンシップで培った経験を、今後活かしていきたいと思えます。

(総合情報学研究所博士課程前期課程1年 池澤智也)

ISGCの経験を通して学んだことは、相手の気持ちを先読みして行動し、情報をきちんとわかりやすく伝えることです。例えば、受付にいる時にはたくさんの人から質問を受けます。その中で多かった質問が、どこの教室でどの講義が行われているかを知りたい人が多かったです。その際に、事前にどの会議室で何が行われているかを把握しておき、迷っている人がいたら伝えるようにしました。そうすることで、調べる手間が減り、会議室に遅れずに入室が出来ます。小さな自分なりの工夫をすることで相手に不便を掛けずに満足して頂けているように感じました。社会に出る前に、素晴らしい方々と出会えたことで社会人としてもっとしっかり頑張りたと思います。

(商学部4年 長谷美央莉)

今回、海外インターンシップと言う貴重な経験をさせていただきました。1番印象に残っている事は、時間に対する認識の違いです。日本では時間を守ることが常識と言われています。しかし、今回のインターンシップでそれが世界における常識では無いのだと感じさせられました。学会ではスムーズに運営を行うために時間配分がされています。しかし、決められた時間になっても行動を起こさない参加者が多い印象を受けました。時間厳守の意思が強い日本では考えにくい出来事です。これらの出来事から自らの常識が全てでは無いのだと認識させられました。日本の枠組みで物事を捉えるのではなく他の視点からも捉える力を養っていきたく思いました。

(商学部3年 大石祐也)

人生初海外インターンシップでアシスタントとしてISGCに参加することを通じて貴重な経験を積み、色々勉強になりました。一番学んだのは積極的に異文化への理解を深め、自分の視野を広げようということでした。例えば、受付を担当するとき、主な仕事は学会に参加しに来た方々に登録してもらったり案内情報を提供したりすることでした。そのおかげで、世界各国から来た人たちと話し合ったり交流したりすることができ、海外への認識を深めました。物事の形は一つだけではないということが分かりました。今後、職場とかで物事に対し、多面的な見方や考え方で取り組もうと考えています。

(華中師範大学 日本語学科 楊綺玲
(本学留学生別科出身・2016年度春学期LA))

今回生まれて初めて、「海外」という場所の、世界中から研究者の方々がいらっしゃる「学会」という舞台を頂き当初は「これで大丈夫かな?」の連続でした。そんなあるとき、一人の研究者の方とお話をする機会があり、自分の心の中からお話しすることができた。そう思えたとき、「それでいいんだよ。馴れないし学会で緊張するのは僕も同じ。その笑顔で楽しんでね。」そう言って頂きま



学会初日の集合写真



学会のサポートをするLA



学会主催者より感謝状の授与

した。その時やっと必要なことが見えた気がしました。いろんな初めての中で、どんなに不安でも笑顔で。今回のこの経験を、助けて下さったみなさんの笑顔を忘れず、きっと素晴らしいこれからは繋げていきたいと思えます。

(商学部2年 安井明日香)

今回、私は初めて自分の意思で海外へ行くことを決意し、ISGCに参加しました。初めの数日は今まで勉強したはずの英語がなかなか使えず、役に立つことができませんでした。しかし、共に参加した方々や主催者である方々の支えがあり、無事業務をこなすことができました。今回のこの研修を通して、自分の語学に関しての未熟さや人との付き合い方の難しさなど、普段の生活では学べないことをより深く学んだことで近い将来、留学へ行くことを考えるようになりました。この素晴らしい経験と少しの後悔をバネにこの場を用意してくださった方々全員が良かったと思ってもらえるような生活を送っていきたく思っています。本当にありがとうございました。

(環境都市工学部1年 上山立起)

今回、僕は他のメンバーの皆さんより短い日数の参加で、出来ることが限られる次第となりましたが、大変有意義な経験をさせていただけたと感じています。多くの国から学生や教授、研究者の方々がお見えになる中で、その参加者全員にとって充実したプログラムにするためにはどのような役割を果たすべきか、また、そのプログラムを滞り無く進めていくためにはどのような工夫が必要かということメンバー内で考え合いながら取り組めたことが、自分たちにとって意義のあるものでした。最後になりましたが、ISGCのスタッフとしてお手伝いさせていただける機会を設けてくださり、関係者の皆様へ感謝の気持ちを伝えさせていただきたいです。本当にありがとうございました。

(商学部3年 松本幹匡)